

『自らの生き方を創る子どもの育成』～1人ひとりの個性を生かす教育の推進～

佐野台小学校だより

No.4 2026. 4. 24 校長 川上 誠治

いつもありがとうございます。

感謝しています。



◆学校には児童虐待の通告義務があります！！

児童福祉法第25条（要保護児童発見者の通告義務）及び児童虐待防止法第6条（児童虐待に係る通告）では、すべての国民に対し、虐待を受けたと思われる児童を発見した場合は、速やかに市町村または子ども家庭センターに通告することが義務づけられています。



◆一人で悩まないでくださいね！！

ボクは泉南市で子どもたちの発達検査を取ったり、保護者の発達相談にのったり…そういう仕事を3年間していたことがあります。その時に一番相談が多かったのが児童虐待です。ある保護者が『子どもはかわいいし、愛している…。しかし、手をだすことしか…私にはできない…。』と言ったのを今でも覚えています。児童虐待をする保護者を悪者にしてしまいがちですが、実際はちがうのです（少なくともボクが対応させてもらった保護者の方は本当にステキな人たちでした）！！

ボクは児童虐待の日本の第一人者である森田ゆり先生のところに行き、直接

児童虐待について学びました。

2007年10月19日付の森田ゆり先生の朝日新聞の記事を紹介します。

◆虐待で娘を死なせてしまった夫婦をめぐる連載『ルポ虐待 ある事件』に寄せられた反響には、『私も過去に虐待を受け、今も苦しんでいる』という内容が少なくなかった。つらい過去を抱える人の心を癒すにはどうすればいいのか。民間研修機関『エンパワメント・センター』（兵庫県西宮市）の主宰者で、米国と日本で虐待防止専門職の養成に25年以上携わり、虐待する親の回復を支援する『MY TREEペアレンツ・プログラム』を開発、実践している森田ゆりさんに話を聞いた。

◆子ども時代に虐待を受けた人は自分の子にも虐待をするという『虐待の世代間連鎖』の考え方が日本では誤って伝えられている。

国際的な学界レベルで頻繁に引用されるエール大学のカフマンとジグラールの研究（1987年）によると、子ども時代に虐待を受けた人が、大人になって子ども虐待をしてしまうのは全体の33%。7割近くが虐待をしない。別の研究でも同様の結果が出ている。そもそも世代間連鎖が事実なら、世の中は虐待の加害者だらけになっていないとおかしい。膨大な『虐待をしない人』を見ずに『連鎖』というのは不正確だ。

私がこの問題にこだわるのは、子ども時代の虐待を生き抜いてきた人々のな



かに、『どうせ私は自分の子を虐待してしまうから』と、結婚や出産をあきらめる人が少なくないからだ。不正確な情報が、さらにその人たちを苦しめている理不尽さを見逃すことはできない。

とはいえ、33%という割合は低いとは言えない。さらに7割近い『虐待しない人』の中には、リストカットや自殺未遂を繰り返したり、アルコールや薬物に依存したりと『自分を虐待する人』もたくさんいる。被害者へのケアの重要性は極めて高い。

虐待の後遺症から回復する人としな
い人の違いはどこにあるのか。

虐待を受けてきた期間や加害者との関係なども影響するが、この問題にかかわる多くの専門家が経験上知っているのは、虐待を受けてからできるだけ早いうちに、寄り添って話を聴いてくれる人が周りにいたかどうかが大きな分かれ目になるということだ。家族、隣人、保育士、教師ら、子どもの周りにいる人々の役割はとても大きい。

ただし話を聴くときには、批判しない、分析しない、同情しない、安易に同感しないという四つのが重要。『あなたはそう思っているんだね』と、ただ認めてあげる。『この人だったら話せるかな』と子どもを安心させ、孤立させないことが大切だ。

では、寄り添ってくれる人と出会えず、心的外傷（トラウマ）を抱えたまま大人になったら回復できないか、という

とそうではない。回復は十分可能だ。

トラウマとは、過去のある時期に強烈な体験をしたことで、恐怖、驚愕、悲しみ、嫌悪感など様々な感情が、記憶とともに瞬間的に凍結した状態と考えるとわかりやすい。

例えば、子どもが『お母さん、絵を描いたから見て』と近寄ってきたときに、自分でも意識しないまま『そんなものなによ』と突き飛ばしてしまう。『私が子どものとき、両親は絵もみてくれなかった』というトラウマがちょっとした刺激で溶け出し、恐れや悲しみが急に襲ってきて混乱している状態だ。だから、凍結した過去の感情を放出し、『あれは過去のこと』と、通常の記憶に合流させる必要がある。それが回復につながる。

人間として尊重されなかった悲しみや恐れを語り、それを受け止めてくれる人と共に涙する。『私は大切にされて当然の人間だったんだ』と再認識し、『必要のない人間』と思い込んできたそれまでの信念を覆していく作業だ。

『自分を変えたい』と願う人は、すでに回復への道をずいぶん歩んでいる。あとは孤立せず、悲しみの記憶を語れる場を求めていくこと。そしてあきらめないことだ。

とにかく一人で悩むのはやめてくださいね！！ 学校も一緒に考えますからね！！ 子育て学習会を土曜授業にあわせて開催しています！！ もしよかったら参加してくださいね！！

